

小児医療における図書を通じた学びと安らぎ

—— チャイルド・ライフ・スペシャリストとプレパレーション ——

前 田 稔*

生涯教育学分野

(2016年9月13日受理)

1. 背景

近年、医療におけるインフォームド・コンセントやセカンドオピニオンへの社会的認識の深まりに応じ、病院における患者用図書館の設置が日本において一般化してきており、公共図書館に健康医療情報コーナーが設置されることも増えている。筆者はこれまで、日本における病院患者図書館の状況について調査活動を行ってきた¹⁾。今回は、2015年9月末から10月初頭にかけて、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスにて、病院患者図書館および健康医療情報・図書の現状に関する訪問調査を行った。各種の病院、公共図書館、書店、学校における読書環境の状況を全体的に把握することがその目的であった。

ロサンゼルスが地域的に必ずしもアメリカ全土を代表するものではないものの、病床への無線LAN配備をはじめ、インターネット技術の普及により、患者への読書環境の提供は、日本に比べてむしろ縮小している印象を受けた。また、専門的な医療情報の入手源が図書・雑誌からオンラインジャーナルへ移行するなかで、医療従事者用の病院図書室の司書にとって仕事の幅が狭まっており、日本における病院患者図書館の拡大と司書の新たな役割について、アメリカ側の司書のほうが高い関心をむしろ示していた。

これらの詳細については別稿に譲るが、今回の調査で印象深かったのは、小児病院であるChildren's Hospital of Orange County (以下CHOC) における、図書提供の状況であった²⁾。CHOCでは、小児がん患者をはじめ、小児科疾患の子どもへ、積極的に医学知識を学ぶ時間と空間を設け、病気と向き合う環境作りを

行っている。また、家族全体のサポートを、病院患者図書館で提供している。本稿では、CHOCへの訪問調査内容について報告したうえで、日本の院内学級に相当するクラスルーム、チャイルド・ライフ・スペシャリスト (以下CLS) が実施する学び、一般も利用できる病院患者図書館、家族専用の情報提供室の4種について紹介するとともに、CLSの役割、プレパレーションとディストラクションについても概観したい。

2. CHOCの患者教育

CHOCは、アメリカ合衆国カリフォルニア州オレンジ郡に位置する、小児専門病院である。発表者は2015年9月29日に、患者への情報提供に関する調査のために訪問し、CLSのマネージャーのかたと、病院患者図書館のボランティアのかたにお話を伺った。

院内には、クラスルームが存在しており、9月から始まる学期に合わせて、月曜日から金曜日まで、数学や英語などの通常の教育を行っている。キンダーガーデンから17歳までの子どもを教えている。一方、このような学校教育とは独立した形態でCLSが、たとえば、注射はどのように体に入るのか、腕を折ったらどのように治療していくのかなどを、子どもたちに教育している。この病院には30名在籍している。小さい子どもからティーンエイジャーまで全部で6部屋を、自分の病気を学ぶ部屋にあてている。それ以外に、音楽のセラピストや、絵画のスペシャリストをとりまとめたり、ハロウィーンのイベントを計画したりすることが、CLSの仕事として含まれる。カリフォルニア大学アーバイン校と提携しており、大学生が研修

* 東京学芸大学 教育学講座 生涯教育学分野 (184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1)



写真1 CLSの執務室



写真5 CLSから病気を学ぶ部屋

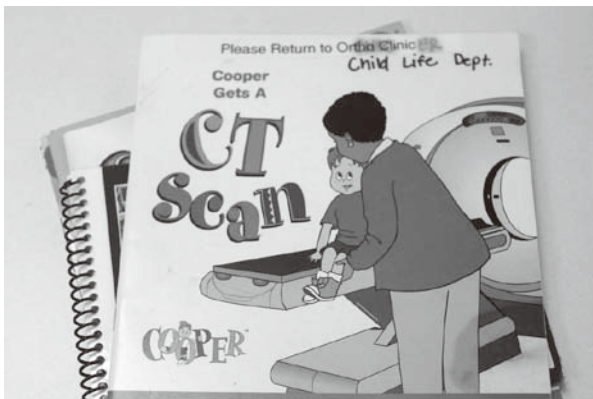


写真2 CTスキャンの絵本



写真6 おもちゃの診察台

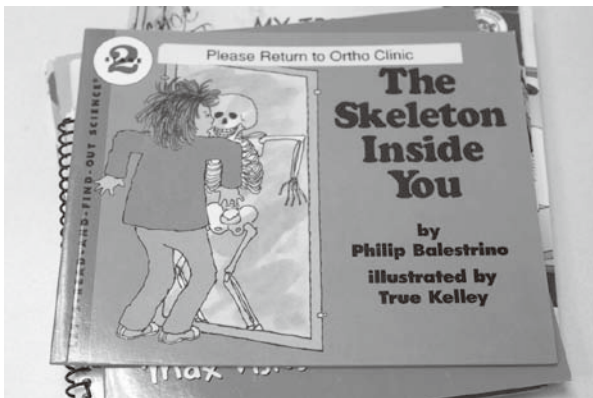


写真3 レントゲンの絵本



写真7 人形に注射

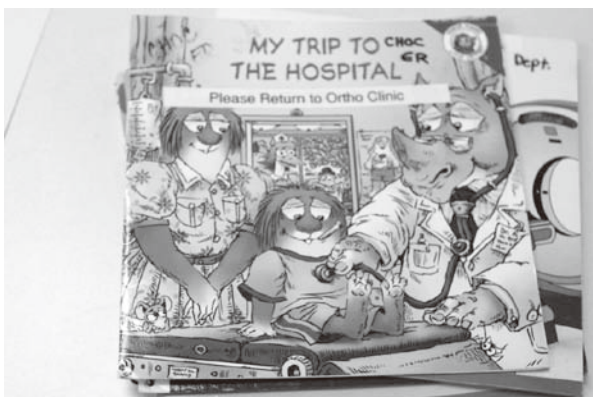


写真4 診察の絵本



写真8 飴で白血病を学ぶ



写真9 赤血球と白血球の飴



写真13 DVDコーナー



写真10 経鼻チューブの人形



写真14 持ち帰り可の寄付書



写真11 一般の人でも利用できる病院患者図書館
(写真11～15)



写真15 パソコンコーナー



写真12 一般書棚



写真16 スタジオ

に来る場合もある。

保護者の中には、子どもは病気について知らないほうがいいという人もいるが、医師を信じてくださいという意味で、子どもたちに病気のことを知ってもらおう。子どもが知ることで、秘密がない、真実のものを教えてくれるという安らぎ感を、与えてくれる。今、この治療をすることによって、病気がだんだん良くなっていくという点を伝えている。

病気に関する絵本や、CTスキャンについての絵本などの読み聞かせを行うほか、キャンディーをつかって、これが白血球、赤血球という具合に説明をする。健康な血液と、がんになった血液との違いを教える。また、大量の服薬が必要になる子どもに対しては、キャンディーを使って、薬を飲むための練習をする。小さいキャンディーからはじまって、だんだん大きくしていく。

20年前あたりは、がんであることを知らせなかったが、最近はがんでも早めの治療で治るものが出てきている。そのことを教えることによって、ストレスを減らすことを願っている。血液採取や注射の意味を学ぶ。どうしてこの治療が必要なのか、これがどのようにがんに対して有効なのかを教えていく。また、病気に打ち勝っていけることを願い、市販の人形を組み合わせ、おもちゃを手作りしている。子どもたちがドクターになって、ベッドに人形を寝かせてあげたり、体温を計ったりする。また、子どもにタブレットパソコンを渡して、自分の病気の進行がわかるようにしている。

月曜日と木曜日には道化師が病院に来る。院内には小さな映画館もあり、中学生から上の子どもが、映画を見たりビデオゲームをしたりするほか、どのようにしたら医師になれるのかを学ぶこともある。毎週、子どもたちを少しでも力づけたいという様々な俳優やスポーツ選手がボランティアで来院する。院内の子どもスタジオで、子どもからのインタビューを収録して、病室内の特設テレビチャンネルで放映する。ドッグセラピーでは30匹のボランティア犬が、交代で子どもたちを相手にする。

3. CHOCの病院患者図書館

入り口受付すぐ横に病院患者図書館がある。子どもが入院している保護者が、自分の子どもの病気を調べ場所である。受付よりも外に位置しているため一般の人でも利用できる。映画やゲーム関連の図書や、雑誌も設置されている。また、奥の半分には子どもの本が

あるが、それはすべて献本された新刊書である。子どもやその家族がきて、この本をほしいと思ったら1日1冊まで持ち帰ってよい。クリスマスの時期になると山のような本で本棚が埋まる。ビデオ閲覧コーナーがあるほか、中央にはタブレットパソコンが設置されており、病気に関するアプリやゲーム等が入っているが、それは主に患者の家族や友人の子ども用である。

ボランティアと専任の職員が働いている。お話を伺ったボランティアのかたは、子どものときに自分はとても病気がちであり、中学校教員となったあと、ボランティアを通していろんな人を助けていきたいと考え、読み聞かせボランティアを経て、病院患者図書館に従事している。病気になった子どもたちだけではなく、家を離れて病院に入院している子どもの面倒をみる保護者や祖父母、兄弟を含めた家族全体をサポートすることを目指している。

院内の病院患者図書館とCLSとは連携をしているが、病院患者図書館は主に家族が利用をしている。病原菌が感染することを防ぐという意味でも、図書エリアの共有は難しい面がある。院内には、病院患者図書館のほかに、家族専用の情報提供室があり、がんに対しての様々な情報提供を保護者に対して行っている。がんのリソースについてのパンフレットや、コンピュータを通じたプリントアウトサービスを行っている。

4. 考察：CLS・プレパレーション・ディストラクションの視点から

今回の訪問調査時点では、CLSが、どのような職種とアメリカ国内で位置づけられ、CHOCでは何を指しているのかについて、詳しい聞き取り調査ができなかった。帰国後、日本教育学会大会の社会教育・生涯学習の分科会においてCHOCの取り組みを紹介したところ、参加者からはCLSの役割について多くの関心が集まった。

日本チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会によれば、CLSとは「子どもの発達やストレスへの対処に関する専門知識を持ち、子どもと家族が困難な出来事に直面した時に、それを乗り越えるための支援をする専門家である」とされている³⁾。また、「1920年代の北米において、医療にまつわる子どもの体験を改善するために、“遊び、プレパレーション、教育のプログラム”として始まり、発展して」きたとされている。

アメリカの大学・大学院ではCLSの専門課程があり、単位履修・臨床の経験・認定試験の合格を経たう

えでCLSとして勤務する。日本では教育プログラムは存在していないが、留学者の数は増えており、日本の小児病院・小児科でも活躍の場が広がりつつある。

今回、CHOCへの訪問調査において、コーディネーターや教育者としてのCLSの役割に注目できるが、なかでも、プレパレーションについて、病院患者図書館との関係が深いものと思われた。プレパレーションとは、小児看護における概念であり、「病院で子どもが“きっと直面するだろう”と思われる医療行為によって引き起こされる様々な心理的混乱に対し、説明や配慮をすることにより、その悪影響が最小限になるように工夫し、その子なりに乗り越えていけるように子どもの対処能力を引き出すような関わりをすること」である⁴⁾。「病院へ行く前や検査・処置などを受ける前のごっこ遊び(Play Preparation)だけでなく、気持ちを処置から紛らわし(Distraction)、終わった後はぬいぐるみなどを使ってごっこ遊びをして検査や処置で受けたストレスを解消するために気持ちを落ち着かせるまで遊びきること(Post Procedure Play)も含まれる」。

プレパレーションとディストラクションについて、医療人キャリアセンター MUSCAT(岡山大学)では、検査装置のおもちゃを使ったプレパレーションや絵本に意識を集中させる採血中のディストラクションも紹介しながら、次のように説明している⁵⁾。「これから行われる医療処置などについて『理由』ではなく、『何が起こるのか』を子どもにわかる方法で説明し、医療行為による恐怖や心理的混乱を緩和するとともに、その事態を乗り越えるための“頑張る力”を引き出していくケアです。“頑張る力”は子どもが疾病から回復する原動力や生きる力となり、子どもの病院での経験が否定的反応から肯定的反応になるなどの効果も期待されます。ディストラクションとはその中の1つの技法で、処置中に行う遊びのことです。処置や治療中に意識を遊びに向けさせることにより、処置に対する恐怖心や苦痛を緩和させます」。

プレパレーションでは、行われる医療処置について「何が起こるのか」を子どもにわかる方法で説明する小児看護技術であることから、おもちゃやビデオのほか、絵本や図書が使われる。また、プレパレーションの一領域であるディストラクションについても、処置や治療中に意識を遊びに向けさせることにより、処置に対する恐怖心や苦痛を緩和させることを目的としており、同じく絵本や図書が使用されることも多い⁶⁾。この点で、病院患者図書館の設置や、病院における患者との読書環境の充実と関係する。また、病院患者図

書館は、図書館の自由を実現する一形態として、患者の知る権利と密接な関係を有するが、プレパレーションについての位置づけが、小児患者の権利を重視していることが、根源的には共通している。

プレパレーションについて研究を行っている蝦名美智子は次のように述べている⁷⁾。「『医療の説明』といいますと『インフォームド・コンセント』がありますが、アメリカ小児科学会(American Academy of Pediatrics: Pediatrics 95(2), 1995)ではインフォームド・コンセントの適応を15歳以上とし、7歳～14歳には親の決定に同意するインフォームド・アセント、7歳以下の子どもはインフォームド・アセントの対象でもないことを決めています。しかし、7歳以下であっても、その子がわかる方法で説明を受け、子どもなりに納得できる関わりが必要ですし、子どもは説明を受ける権利があります。この権利について、Action for Sick Childrenの『入院している子どもの権利に関する十箇条』、およびEACH(European Association for Children in Hospital)の『病院のこども憲章』、さらに子どもの権利条約の12条・13条に明記されています。つまり、事前に『何が起こるか』の説明を受けることは、医療処置上のマニュアルではなく、おとなのインフォームド・コンセント同様、子どもに医療を行う際の倫理上の問題であり、子どもの基本的人権なのです。」

以上のことを踏まえつつ、改めてCHOCの取り組みを振り返るならば、子どもたちが生きることと直面する中で、従来であれば、子どもに知らせるべきではないと思われてきた病気や治療についての知識について、積極的に理解を深めることに向けた施設づくりと、それを実現するCLSの存在に改めて注目できるだろう。

5. おわりに

CHOCのシステムは、小児病院や小児科の治療だけではなく、一般の公共図書館や学校図書館における、子どもを対象とした健康・医療情報の提供においても十分に参考になる。従来、病気について子どもたち自身が学ぶという環境づくりは、あまりなされてこなかったが、より積極的な対処が有効である可能性がある。すなわち、図書が学びと安らぎを提供する機能と、プレパレーションないしディストラクションの類似性や、CLSの役割が司書職や司書教諭・学校司書への位置づけと関連するものと思われる。今後は、小児医療における図書の役割について、さらに調査を進めていきたい。

注

- 1) 病院患者図書館についての全国調査結果については下記を参照。前田稔：「病院における読書環境の現状～2013年全国病院患者図書館調査の結果より～」第63回日本図書館情報学会 研究大会発表論文集, pp.81-84, 2015年。なお、本稿については日本教育学会における学会発表を基礎としている。前田稔：「健康・医療情報の提供と学校図書館の役割－カリフォルニア州の子ども病院を参考に－」日本教育学会第75回大会発表要旨集録, pp.184-185, 2016年。本研究は、2007年度科学研究費補助金（基盤研究（C）19500204）、2009年度東京学芸大学重点研究費、2010年度科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号22590456）、2013年度科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号25460839）の研究助成を受けた研究である。
- 2) CHOC Children's 1201 W La Veta Ave, Orange, CA, ホームページは<http://www.choc.org/>（アクセス：2016-9-8）。
- 3) チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会ホームページより。<http://childlifespecialist.jp/>（アクセス：2016-9-8）。
- なお、アメリカでは、Child Life Council, Inc. が中心となって展開している。下記の説明も参照。<http://www.childlife.org/files/Flyer-ChildLife2011.pdf>（アクセス：2016-9-8）。
- 4) 「子どもと親へのプレパレーションの実践普及」研究班「プレパレーションの実践に向けて 医療を受ける子どもへのかかわり方」<http://www.okinawa-nurs.ac.jp/oshirase/syouni/siryo/preparationshiryoku.pdf>（アクセス：2016-9-8）。
- 5) ますかっと病児保育ルーム Letter Vol.3, 2013年5月 http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/up_load_files/jisedai/next_letter03.pdf（アクセス：2016-9-8）。
- 6) 絵本とプレパレーションに関する資料として、下記が参考となる。医療法人 元気が湧く「絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオ」<http://bibliokids.jp/>（アクセス：2016-12-9）、および、同ウェブサイトで提供している「臨床の中に活かす絵本：小児歯科と歯科医療文化」（小児歯科臨床）<http://bibliokids.jp/information/column/>（アクセス：2016-12-9）。
- 7) 前掲⁴⁾ 参照。

小児医療における図書を通じた学びと安らぎ

—— チャイルド・ライフ・スペシャリストとプレパレーション ——

Learning and Ease through the Book in the Pediatric Care from the Viewpoint of Child Life Specialist and Preparation

前 田 稔*

Minoru MAEDA

生涯教育学分野

Abstract

In this study, I investigated Children's Hospital of Orange County (CHOC) in the United States of America California orange county. I discuss it about learning and the ease through the book in the pediatric care while considering the role of the child life specialist about the book, and mentioning preparation.

Keywords: Patients library, child life specialist, preparation

Department of Lifelong Education, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要旨: アメリカ合衆国カリフォルニア州オレンジ郡に位置する、小児専門病院である Children's Hospital of Orange County (CHOC) への訪問調査内容について報告したうえで、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（以下CLS）の役割、プレパレーションとディストラクションについても概観し、小児医療における図書を通じた学びと安らぎについて考えていく。

キーワード: 病院患者図書館, チャイルド・ライフ・スペシャリスト, プレパレーション

* Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)